

# 被災事業者の再生へ

高木氏が福島・南相馬市を訪問

## 経営安定化で支援策探る

公明党東日本大震災復興  
加速化本部の高木陽介事務  
局長(国会対策委員長)は



高藤社長(左)らと意見  
を交わす高木事務局  
長(中)=24日 福島・  
南相馬市

24日、被災した事業者の再生と経営安定化に向けた課題を探るため、東京電力福島第1原発事故からの復興が進む福島県南相馬市を訪れ、地元経営者らと意見を交わした。

高木氏は、地元老舗旅館

「抱月荘」を訪問。震災以来、休業を余儀なくされていた抱月荘は、部屋の改修に伴う補助金申請や事業計画作りで、被災事業者を訪問支援する「福島相双復興官民合同チーム」の助言を受け、昨年5月に営業を再開。宿泊客で満室となる日も着実に増えている。

高藤章司社長は「営業再開で官民合同チームの皆さま

んには助けられた。きめ細かな支援に本当に感謝している」と強調。今後の経営安定化に向けては「年間を通じた効果的な宣伝、誘客活動が課題」と語った。

視察後、高木氏は、公明党が発足に尽力した官民合同チームが今月で4年を迎えたことに言及し、「被災事業者の再生に大きな役割を果たしている」と指摘。党復興加速化本部として「今後も、一人一人に寄り添い、迅速な課題解決の体制づくりを進めていく」と述べた。

このほか高木氏は、地元バス会社「東北アクセス」の遠藤竜太郎代表取締役からも経営課題などについて話を聞いた。